

# なび

3月号  
vol. 181

## おとなの 社会科

特集

第6講 歴史 — 南津守

「にゃんですか？」  
Nさま宅にて撮影

# おとなの 社会科

## 第6講 歴史 — 南津守

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてみた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

### 千本松と渡船

淀川の分流である木津川は、古来より大阪の主要な船舶出入路として繁栄した。江戸時代には北前船をはじめ諸国の廻船が盛んに往来し、沿岸の港は大いに賑わったという。

1832(天保3)年、幕府は舟運の安全確保を目的に、木津川の河岸に防波堤として大規模な石堤を築いた。全長は約1.6キロ、現在でいうと、南津守の千本松大橋から住之江区の新木津川大橋までの範囲にあたる。堤の上には松並木がつくられ、「千本松」と呼ばれる著名な景勝地となった①・②。その絶景は天橋立や三保の松原と並び称されるほどだったという。人々はここで潮干狩りを楽しんだり、川面に屋形船を浮かべて釣りや酒宴に興じたりもした。

西成—大正間を結ぶ渡船の歴史

史は、この頃すでに始まっていた。当時は有料、個人経営で世襲の家業だったらしい。大阪府は1891(明治24)年に「渡船営業規則」を定め、営業時間や料金の統一を図る。さらに1907(明治40)年には、危険防止のため大阪市営に変わった。

### 戦争と造船

明治から大正にかけて、見渡す限り田畑が広がっていた南津守にも、都市化・工業化の波が押し寄せる。1914(大正3)年に第一次世界大戦が始まると、欧米の商品輸出は停滞し、入れ替わりに日本製品の輸出が急増。その後数年にわたって空前の好景気に沸いた。大阪はこの間に重工業の分野で大きく躍進、中でも造船業は、戦争による世界的な船舶不足のため急激に成長する。水運の良い木津川筋には造船所の開業が相次ぎ、一帯は

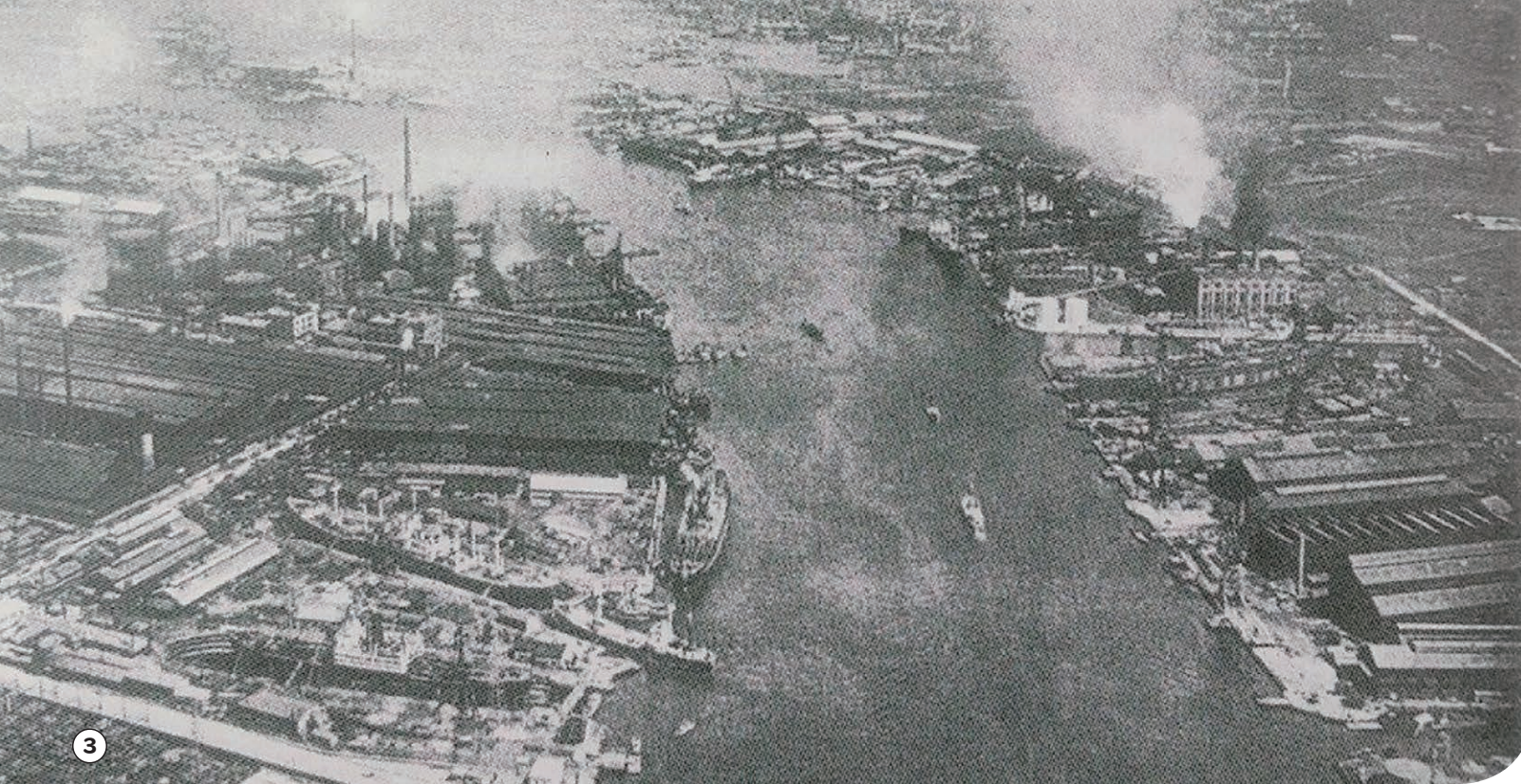


明治時代と現在の千本松。石堤はコンクリートに変わった

約50社の工場が林立する「造船の街」へと変貌を遂げた③。この過程で用地確保のために千本松は伐り倒され、消失している。

千本松の跡には、佐野安造船所、名村造船所、藤永田造船所が、市内の他地域から工場を移した。隣り合う3つの造船所は「川筋3社」と呼ばれ、木津川筋の中心的存在だった。労働環境の過酷さ是有名で、「鬼の佐野安、地獄の名村、情け知らずの藤永田」と揶揄されるほどだったという。

海軍の直営工場だった藤永田造船は、小型の軍艦である駆逐艦の建造を多く手掛けたことで知られた④。1941(昭和16)年に太平洋戦争が開戦すると駆逐艦の需要は高まり、増産体制に入った。この時期、佐野安造船も軍需工場の指定を受け海軍に買収されるなど、造船の



在りし日の「造船の街」。左右両岸に建造中の大型船が並ぶ



夜の千本松大橋と千本松渡船。橋を渡るのが大変なため、渡船の利用客は多い

橋のアーチが架かる。昔はあの辺りまで松並木が続いていたはずだ。今夜、大阪湾から川伝いに上ってくる風は冷たく、川面は夜をそのまま飲み込んだように黒い。表通りの喧騒と隔てられた「もう一つの津守」

大正区側に向かう船が渡船場に到着した。21時30分発、今日の最終便である。家路を急ぐ待合客の姿が見えた。どのような時代であれ、人々の小さな営みは続く。全員が自転車を押して乗り込むと、船はゆっくりと岸を離れて行った。低いエンジン音が冬の張りつめた空気に響く。操縦席の上に光る航海灯が、対岸にいる見えない誰かに合図を送っているように見えた。

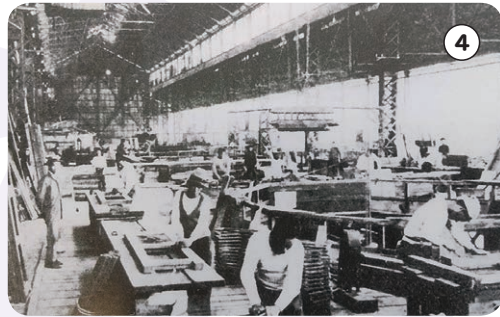
文責：福井龍磨・若松司

店舗の大きな看板に、1つ、また1つと灯がとまり始める。行き交うトラックのヘッドライトが黄昏を貫いて流れ出し、やがて街路は光の洪水となる。

津川筋が衰退する前は1日に100本以上のバスが発着していたというが、現在は60本以下に減っている。サノヤス造船協の道を、木津川に向かって歩いた。夜の工場街は人影もなく静まり返っている。壁のように高い堤防を越えて水辺に降りると、「めがね橋」こと千本松大橋が天高く架かっていた(⑥)。橋の下には、大正

中期に設置されたという千本松渡船の乗り場がある。橋の開業と同時に廃止される予定だったが、利用客の強い要望により一転、存続が決まった。それからもう50年になる。上流側の遥か遠く、梅田の超高層ビル群の灯が見えた。河口側には藤永田造船跡のゴルフセンター、その先には1994(平成6)年に開通した新木津川大

もう一つの時間が流れている。繁栄の裏側にある、果てしなく深い闇。貨物船で運ばれて来た異国の人々は、深い夜の底を流れる川の音を聞いただろうか。歴史という大きな物語からこぼれ落ちた小さな声は、誰にも聴き取られることなく、今も木津川の底や、遠い異国の海の底で眠っている。



昭和初期の藤永田造船。木工切組工場での作業風景を写したものの

藤永田造船が終戦までに建造した駆逐艦は56隻に及ぶが、その大半は米軍の攻撃によって、南太平洋や台湾、フィリピンなどの海底に沈んだ。藤永田の工場も1945(昭和20)年6月の第2次大阪大空襲で大部分が焼失。当時、大阪市内に31カ所あった渡船も、その多くが被災し廃止された。

### 斜陽の街

木津川の河口部は、古くから大型船の頻繁な航行のために橋が架けられなかった。そうした陸上交通の不便を解消するため、南津守と大正区の南恩加島を結ぶ千本松大橋が1973(昭和48)年に開通する。ループ橋にす

ることで高さを確保し、大型船の航行にも対応した。しかし、この頃すでに木津川筋は勢いを失いつつあった。5年前の1967(昭和42)年には藤永田造船が三井造船に吸収合併されるなど、すでに予兆はあった。

造は行っていない。名村造船の跡地には当時の建物が残っており、ライブや演劇、展示会などのイベント会場として使われている(⑤)。藤永田造船の跡地にはゴルフセンターと物流倉庫が建てられ、往時の面影はない。

### 水の記憶

木津川の西に日が沈む頃、新なにわ筋に面したロードサイド



名村造船の跡地。経済産業省の近代化産業遺産に認定されている



森口さんと店舗担当の野淵さんがお忙しい中、時間を取ってくださいました。まずは会社について尋ねてみると、MNETはIT系の会社だということだった。ホームページがオシャレで充実しているのも納得だ。でも、なぜスイー

ツのお店をすることになったのか。森口さんは、元々飲食に関心があつたそう、あるときに「自分たちでやってみよう」となったそうである。そのフットワークの軽さに感心した。

HOKU HOKUの店舗はテイクアウト用の造りになっていて、かなりシンプルだ。メニューはバナナアイスクリーム、ハニーバター、クレームブリュレ(一番人気)、チーズ&バジル、チーズ&ケチャップの5種類。いずれもサツマイモを丸々一つ使っている。なのでボリューム満点。旬に合わせてサツマイモの銘柄(ブランド)を変えているというこだわり(この日は茨城県産のシルクスイート)も、おいしさの秘訣だ。

実は取材に伺う前にハニーバターを試しにいただいた。まさにおやつにピッタリの一品、蜂蜜と焼き芋の自然な甘さにバターの絶妙な塩加減が効いて美味しかった。取材当日にいただいたのはチーズ&バジル。正直に言う、食べる前は焼き芋にチーズってどうなんだろうと身構えたが、イタリア

## 西成発の焼き芋スイーツ 「HOKU HOKU」

さて、問題です。今から約400年前に日本にやってきて、徳川吉宗の時代に青木昆陽という人が日本全国に広めたとされる食べ物は何でしょうか。答えはサツマイモ。サツマイモは度々ブームが起こり、料理にもスイーツにも使える日本で愛されてきた食材の一つだ。栄養も豊富であり、焼き芋にすると更にビタミン等が豊富になる特徴がある。

「そういえば焼き芋って最近食べてないな」と思った方。昨年11月にオープンしたての焼き芋スイーツ専門店「HOKU HOKU」をご紹介します。場所は国道26号線沿い、大阪メトロ四つ橋線玉出駅と岸里駅の間あたりにある。私は最強の方向音痴だと自負しているが、サツマイモのような鮮やかな紫色の看板のおかげで、すぐに見つけることができた。

合同会社MNET最高経営責任者の



左はチーズ&バジル。右はクリームブリュレ。

ンな味付けとチーズの相性がバッチリ、バジルのいい香りもたまらない。お酒のおつまみに最適というのが個人的な感想。右手にビールを持っていなかったことが悔やまれる。

HOKU HOKUでは月に一度、子どもの居場所づくりとして、紙芝居イベント等、様々な活動をしている。イベントの写真を見せていただいたが、子どもたちが本当に楽しそうにしているのが印象的だった。

さあ、次に行くときはどのメニューにしようか。HOKU HOKUに行かれた方がいたら、一押しメニューを教えてください。

文責：山村裕太

### HOKU HOKU

住所：西成区千本南1丁目22の6  
営業時間：11時～19時  
TEL：06-6616-7080  
定休日：不定休  
備考：UberEats・出前館対応店



ホームページ



Instagram



[谷口円] 最近ネットで見かけた「セ・パ両リーグ制覇」という言葉。セクハラ・パワハラのことからもする人のことらしい。ネットにはうまいこと言う人がたくさんいて感心します。



[田岡秀朋] 過去の冬季五輪開催都市の2月平均気温は1920-40年代が0.4度。21世紀は6.3度とえげつない温暖化らしい。金とエネルギーをかけた人工雪の五輪。この負の連鎖どないかならんかな。



[沖田一志] 人に勧める前に速度と設定を試したかったので、事務所のネット回線をV6サービスに移行。オンラインが増えた影響でネットが遅くなったので、V6に乗り換えも有りだと思います。

# 些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのガチ系コラム。

## 『野球でも偏向報道』

オリックスバファローズのファンになって7年目。初優勝は嬉しい。本拠地の京セラドームは私の職場から徒歩18分、昨年までは当日でもチケットが買えたので、仕事帰りにすぐに立ち寄れた。毎年負け越してもいつか勝つはずと期待し応援してきた。もう一つの準本拠地である「ほっともっとフィールド神戸」へも年に数回通う。「神戸」という名前なので三宮あたりの便利な場所と思われるかもしれないが、かなり遠い。六甲山系を切り開いた場所に建てられた球場なので標高が高く、駅を降りた時には新緑の香りが漂うほどだ。夏には試合途中で花火の日が設けられ、大阪よりも空気が澄んでいるのでとてもきれいなのだ。

客席もドームよりも選手が近い。控えのピッチャーの練習場が野球場わきに作られているので、試合を観戦しつつも控えの選手が練習するとそちらも気になるといどっちも見たらええねん的なファンにとっては贅沢な楽しみとなっている。ピッチャー交代の場面では抑えの選手が出ていく前に必ず誰かが背中をたたき、お水を口に一口含んで出ていく儀式を

間近で見ることが出来る。「そんな当たり前なことを」と思われるかもしれないが、野球中継では紹介されない野球あるあるを間近で見ることが出来るのが楽しい。

ただ、駐車場はかなりの台数が駐車できるが出口が狭く、最後まで観戦した後に在庫すると二時間も待たされ、真夜中に自宅に到着した経験がある。あの時は翌日の仕事がつらかった。観戦するなら公共交通機関の利用をおすすめしたい。

昨年5月末から行われたセパ交流戦でオリックスバファローズが優勝したあたりからいつもとちがうと思っていたが、まさか優勝まで登り詰めるとは思わなかった。コロナ禍でいつも以上に自宅にいる期間が増え、毎試合を観戦し本当に感動した。選手の皆さん、監督、コーチほんまに素敵な試合をありがとう。

関西にはもう一つ、超人気球団の阪神がある。両チームともCSにあり関西対決で盛り上げようと「両チームの優勝を」という声が多く寄せられたが、私的には堪忍してほしいと思った。というのも地元メディアの偏向報道が目にする。朝の地元

情報番組では必ず阪神の試合結果が真っ先に紹介される。負けた試合でもナイスプレーやピンチをくぐり抜けた的な紹介がこれでもかと繰り返される。そんな中で、オリックスバファローズの選手がそれ以上の凄いプレーをしても勝ち試合でも、毎日紹介されることも皆無だ。「まあそんなやいやいやいわんでも」と阪神寄りの方は思われるかもしれない。しかし、今回は優勝しながら対戦相手はヤクルトだ。残念ながら負けてしまったが、「接戦でめちゃくちゃ面白いですよん」という声も私も届くほどいい試合が続いた。

今回ばかりはこちら寄りの応援を期待していた。がしかし、テレビではアナウンサーが「これが阪神の選手だったら…」と続け、またまた偏向報道は続いた。期待していた私がかたかった。残念。

ハンブレイ・T



【安田拓也】年度末はなんやかんややっぱり忙しいですね。とは言いつつ、少し先に琵琶湖疎水の桜並木を見るべくサイクリングを計画。まだ肌寒いと思うので、銭湯でも入って帰ろうと。



【福井龍磨】本誌の取材で、南津守の木津川沿いを何度も訪ね歩いた。「東洋のマンチェスター」、「煙の都」、「大大阪」…。この街がそんな名前と呼ばれていた時の、夢の残骸がいくつも落ちていた。



節分イベントはコロナ禍で中止になりましたが、自分で作った鬼の面をつけて「はい！チーズ」。鬼は来なかったけど、鬼のあてゲームで楽しみました。2月はまだまだ寒いけど、子ども達は元気いっぱい！ 3月はどうかなあ。



GooKids International School

## 63歳 豊間

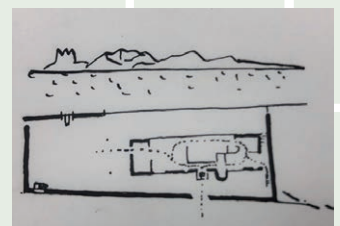
有名な建築家ル・コルビュジエの著書『小さな家』を開いた。それは彼の両親へ贈られた平屋建ての小さな終の棲家で、母親は一〇一歳で亡くなるまで健康に過ごしたという。

この「小さな家」はなんと世界遺産。その理由は、建築家ル・コルビュジエの近代建築への多大な貢献にある。「住宅は住むための機械」という彼の有名な建築思想、近代建築の五原則（屋上庭園・広い窓・自由な外観など）やモデューロール（人体を基にした建築の基準寸法）の提唱、そして低層過密市街地の改善としての超高層ビルへの建て替えや近隣の緑化計画など、その後の「都市計画」への影響ははかり知れない。

そんな彼が大切な両親へ贈ったプレゼント。特筆すべきは、建物計画を前提に、最適な敷地を探し求めたこと。彼の思想の合理性は、今日ではとても無機質なものを感じてしまうが、その細部への計画（気配りやこだわり）には確かな温もりがある。

社会が縮小し変化してゆく中、何が大切か、そんなヒントが込められた一冊。

（安田拓也）



敷地探しに持ち歩いた、図面と理想の風景スケッチ



【西原夏美】最近スマホで漫画を読んでいるのですが、紙媒体と違って外で暇つぶしなどにはお手軽感はあるけど、やっぱりあれですね、紙媒体が一番だなと実感します。



【西田吉志】「長い間、人と人との関係で苦労してきた私たちだからこそ、何よりも人との関係を大切にしたい」という先輩の言葉を僕は大切にしている。どんな場面でも「他人にやさしく」は僕の信念だ。

# 葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱのお喋りを聞いてください。



## 「マーガレットの葉っぱ」の巻

私はマーガレット。  
ニックネームはデイジーイエロー。  
グリーンに染めたモジャモジャ頭。  
昭和の時代はアフロヘアー。  
令和のいまはポップコーンヘアー。  
とうもろこしの粒に似た  
黄色の花を咲かせるんだ。  
緑と黄。  
おしゃれなヘアーアレンジでしょ。  
早くみんなに見てほしい。  
雪解け水が頭にかかる。  
春はもうそこまで来ている。

赤井まゆみ

### マーガレットのこと

マーガレットは、キク科の半耐寒性多年草。和名はモクシュンギク(木春菊)。観賞用の園芸植物として、主に温室やビニールハウスで栽培される。花言葉は「恋を占う」「信頼」。

今、蔓延防止重点措置により社会活動に様々な制約が課されているが、新規感染者の数がなかなか減らない。身近でも感染者が出ており、これまでになかった状況になっている。ただ、これまでと違うのは、一時的に熱は高くなるがすぐに収まり、軽症で完治している。マスクでも言っているが「風邪」のように感じるのは私だけだろうか？

気になることが一つ。咳や鼻水、微熱があつて病院に行くと、かかりつけの病院であっても、とりあえず「発熱外来」診察とPCR検査から始まり、陰性が確認されて初めて診察をしてもらえるという格好だ。コロナ以外の原因で病気になってもすぐに診てもらえないのは問題があるのでは？ 手遅れになれば取り返しがつかないし、薬がすぐに処方されなければ症状を抑えることもできない。もどかしさを感じる。もう少しだとは思いますが普段の生活に早く戻れることを願っている。

(寺本良弘)

# 皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



# い湯かげん

## 議員定数は減らず、市有地は売る、それだけで良いのか

西成区の市議定数が4から3に削減されるようだ。国勢調査の確定値で、阿倍野区や天王寺区などより人口が少ない西成区と港区の選挙区のほうが議員定数が多いという『逆転現象』が起きている。そこで維新の会は議員定数を2〜8削減する案を示し、会派の代表者が集まって港区と西成区の議席を1つずつ減らす方針で合意したようである。また大阪府議会においても、定数を88から79に削減する案を2月の議会に提案するらしい。これは仕方のないことだろうか、否、立ち止まって考えるべきではないのか。

「西成特区構想」をまとめられた鈴木亘さんは、2010年で12万人の西成区の人口が2020年には

10万8千人になり、2030年には9万人台に減少すると予測したが、2020年現在で10万6千人強。的中しているどころか、もっと減少している。

ヒューマンライツ福祉協会の摺木利幸理事長もそのコラムで、日本は2008年から人口減少時代に入っている。全国が16%の減少に対して、西成区はなんとその3倍の48%も減少(大阪府17%減、大阪市10%減)し、このままだと2045年頃には6万人弱になると予測している。摺木さんはさらに、人口減の要因に西成区民の短命さ、つまり早死があるという衝撃的な指摘もしている。他方で西成区では子ども数も減少し、幾つかの学校が廃校となった。町会機

能も低下し、連合町会長の寺本良弘さんも運営に苦慮されている。ところが、人口は減少しているのに総住宅数は増加している。全国的にも西成区でも空き家は一貫して増加傾向にある。なかでも、賃貸または売却の予定がなく、長期にわたる居住世帯不在の住宅等を含む「その他の住宅」が増加している。「その他の住宅」は管理・処分方針が未定のものもあり、他の区分の空き家と比べて管理が不十分になる。

完全な「都市の空洞化」現象である。その背景にある老朽賃貸住宅密集市街地問題やあいりん地区問題に、西成のまちづくり運動は取り組んできたはずなのに。

選挙区割はこれらの課題に取り組む都市政策の一つでもあるが、いつか議論された特別区や総合区の提案も今は元の木阿弥である。大阪市の都市政策議論は進展せず、西成区に顕著な「都市の空洞化」は歯止めがかからない。なのに、議員の定数だけは変えられることになった。そんな折、西成区の旧青少年会館跡地や保健所跡地など市有地の売却

が広報されている。これも議員定数の逆転現象の解消と同じ、ただ市有地の空地を減らすだけなのか。西成のまちづくり運動には、市有地を「種地」として活用するという発想があった。また、ボクは、公契約を価格だけの競争にせず「総合評価入札」に、公契約を雇用や福祉などの「種地」として活用することにも取り組んできた。

維新の市長になって三代、公募区長への権限移譲など斬新なアイデアもあった。いっそ、定数減の区には「公募副区長」を配置するとか、西成区のような都市課題が多い地域の市有地売却には「総合評価」を導入するとか、さすがと思わせるアイデアはないのか。松井市長に訊ねてみたいものだ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[山村裕太] 本屋へ立ち寄ったときに「○○が9割！」「○○が必ず実行している100のこと！」のようなタイトルの本が多くありました。個人的に内容が良くても買う気が無くなります。



[若松司] 先月の冬季オリンピックは北京(中)で次はミラノ(伊)。夏季は東京の次がパリ(仏)、ロス(米)、ブリスベン(豪)の予定。限られた都市・国で開催地を回し合っている。



地域の縁を心でつなぐ

# 心の時間



老夫婦に「今度の五十回忌はお祝いの法事なのでお赤飯をお供えしよう」と伝えると「なぜ私たちの子供の五十回忌がお祝いなのか？」との質問。私は次のように申しました。

何事においても、一生の中で五十年続けることは困難なことです。亡き子供を「大切に思う」が故に「切ない」時間を過ごしたこともあったでしょ

うが、仏様となった亡きお子さんがご両親を育ててくださった、大切な五十年でもあったはずです。だから五十年を一つの区切りとして、この日を迎えたこと、今日まで仏様にお育て頂いた感謝の法事なのです、と。

この老夫婦は悲しい「思い出」を五十年間忘れませんでした。悲しい「思い出」は私にもいくつかありますが、「忘れない」ことが今日の原点になった「思い出」もあります。もちろん「忘れる」ことで前を向いて生きる方法もあります。それでも私はこれから「忘れない」を大切にしたい。「忘れない」「大切に思う」「切ない」は人を「強く」「優しく」に変えてゆく言葉に感じます。

松向寺 通法

# ココドコ

ココはドコ？  
わたしはゆ～れ？  
編集部が厳選した  
「にしなり100景」  
大公開！

工事中の建物の骨組み。作っている途中なのか、解体している途中なのか…長い間このままの状態です。ココがドコだかわかった人は、ゆ～とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は3月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 千本南2-12-25にある「千本南公園」でした！日時計と共にまったりした時間を過ごしてみるのも良いかも。



2022年1月撮影



# ゆ～とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび3月号(vol.181)  
発行日:2022年3月1日(創刊日:2007年1月1日)  
発行:株式会社ナイス  
住所:大阪市西成区長橋3-6-33  
電話:06-6563-1156  
E-mail:info@nice.ne.jp  
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司  
編集:沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)  
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

